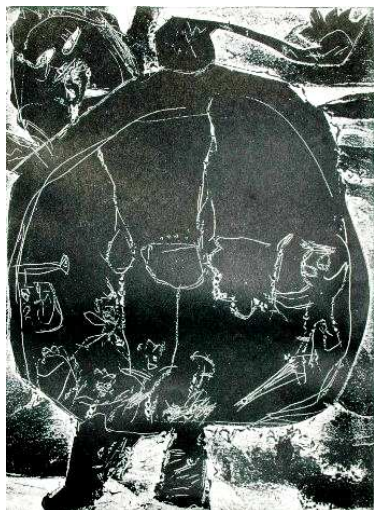


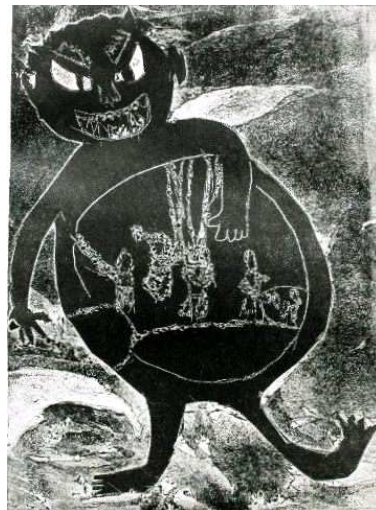
お話の絵 “じごくのそうべえ” (板紙凸版)



2年 岩野 貴仁



2年 坂中 新太郎



2年 福間 彩

版画の種類	板紙凸版	学校名	大田市立朝波小学校		指導者	笠井 修
題材名	お話の絵 (じごくのそうべえ)		学年	2年生	時間	6時間
題材のねらい <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいお話の内容を想像しながら版でつくる。 ・紙をはいだり、線で表したりしながら版の作り方を工夫する。 						
紙版画の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・線や面で描きたいものを工夫して表現することができる。 ・黒凸版を経験することで、木版画にスムーズに導入できる。 ・カッターの使い方を習得することができる。 ・刷った作品に色付けをしたり、版自体に着色したりして作品を作ることができる。 					
準備	板紙版画用紙, 紙版画用具一式 (油性版画インク, インク練りべら, ローラー, インク練り板, 強化ガラス) カッターナイフ (切り抜き用カッティングナイフ), 鉄筆, ニードル 新聞紙, 洗剤, 手ふきタオル ケント紙, 鳥の子紙, 霧吹き, 画用紙, プレス機					

授業のながれ

授業のながれ	ワンポイントアドバイス・裏技
<p>1 お話を聞く 「じごくのそうべえ」のお話を聞く</p>	<p><i>お話の絵では場面選びが重要</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポイントは主役と脇役とプラス状況の分かるものの3つが描ける場所を選ぶ。 ・ 長い話ほど、表現させたい場面を限定するほうがよい。
<p>2 下絵を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ じんどんき（そうべえたちをのみこんだ鬼）をおおきなかたまりとして描く ・ お腹の中のそうべえたちの様子を描く 	<p><i>画面構成について</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生の発達段階を考えて、大きなかたまり（じんどんき）と、その中の細かな人（そうべえたち）やパーツを描かせる。 ・ 絵の中で多くの対比、大⇔小、疎⇔密、直線⇔曲線を取り入れさせる。
<p>3 版に写す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下絵を紙版画用板に写す（油性マジックで描く） 	<p><i>版への写し方</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カーボン紙や石鹼水をつけた版の上に下絵を載せるなど方法があるが、ここでは名前ペンなどの油性マジックを使って、下絵を写した。 <p><i>油性マジックを使用する理由</i></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芯がやわらかいため、版画用板の表面を傷つけない ・ カーボン紙などで写した線よりも、下絵を見ながらの線がより、生き生きした線になる。
<p>4 紙凸版を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カuttingナイフで大きなかたまりの周りに切り込みを入れ、周りの紙を剥ぐ ・ そうべえたちの様子をニードルや鉄筆を使いひっかいた線で表す 	<p>初めての紙版画を体験する2年生を考慮して、版の作り方を簡単にした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陽刻（じんどんきの大きなかたまりのまわりの紙を剥ぐ）によって、黒のかたまりを表現する。 ・ 紙の剥ぎ方は、切込みを入れたら、そこから紙をニードルなどで起こすようにし、手でねじる様にながら剥ぐ。真横や縦に一気に長く剥がないように注意させる。 ・ はがす層を変えることで中間色を出すように工夫させる。 ・ 顔の表現の仕方は剥ぎ取って白く表したい所を決めて紙を剥ぎ、それ以外は線による表現にする。 ・ お腹の中のそうべえたちの様子をニードルで丁寧になぞるようにして表す。（ニードルを斜めにして引きながら線にすることと紙を回しながらニードルを使うように説明する）

<p>5 刷る (準備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚れないように準備をする 版を乗せて刷る机上に新聞紙などを敷く 体操服に着替える ・刷り紙の準備 少し湿らせた刷り紙を新聞紙の間にはさんでおく ・インクを練る インク練り板の上でインクをよく練る ・バレン、版の準備 ・版を新聞紙の上に置く ・版の上に版画インクをローラーでつける ・版をプレス機の上に移す ・刷り紙を乗せる ・プレス機で刷る 	<ul style="list-style-type: none"> ・爪が汚れやすいので、爪にセロテープを巻いてから、軍手をするとう作業しやすい。 ・新聞紙は、図工室などの大きな机の全面に敷き詰め、テープで留めておく。 ・ケント紙は厚くて丈夫なので、霧吹きで水をつけてから新聞紙にはさんでおくくらいがよい。 ・油性インクを使う場合は、強化ガラスなどをインク練り板として使うと広いし、後の掃除がしやすい。 ・油性インクはしっかり練る。特に気温の低い場合は、室温をあげるとインクが柔らかくなりやすい。 ・インクの練りは、ローラーを転がした時の粘り気のある音がでるまで行う。 ・ローラーでインクをよく練る。インクの付きが多すぎたら新聞紙の上などでローラーを転がし、インクの量を調整する。 ・紙凸版では、小さいローラーの端を使って、凸の所に少しだけインクをつけておき、その後、全体に平均してローラーを転がす。 ・プレス機は指1本で回るくらいに圧を調節する。インクが薄い場合は、画用紙などを刷り紙の上に載せて、厚みをつけてインクが濃くなるように調整する。 ・フェルトは版がつぶれてしまうので、きれいな刷りにするため紙を重ねて使う。
<p>6 作品を台紙に貼る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の縁を5mmほど残して切る ・作品を台紙(画用紙, マニラボール)に貼る 	
<p>7 後片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローラー、練り板、ガラスを乾燥しないうちに洗っておく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローラーは新聞紙の上で転がすと、かなりきれいになる ・強化ガラスはプラスチックの練り板と違い、洗剤などにはとても強いので、安心してきれいに出来る。

発展 (こんなこともできるかな)

- ・紙凸版をドライポイントとして刷り作品に仕上げることが出来る。
- ・刷り終わった紙凸版の表面のインクを出来るだけふき取り、乾いてから水彩絵の具やアクリル絵の具で色づけして作品にする。

取り組んだ先生から ひとことアドバイス

- ・紙凸版は小さな線の表現も可能である。反面、少しの引っかき傷も作品に影響する。そこで、版を大切に扱わせることと、鉛筆などで何度も書いたり消したりさせないことが重要である。
- ・刷りによって作品は大きく異なる。薄いインクを何回も重ねることで、黒はしっかり黒くする。細い線はつぶさないよう、中間色が表現できるように、インクを載せる、ローラーの圧を紙を重ねておくことで調整するとよい。